

艦これ 「提督と漣達がひたすら喋ってるだけ？のお話」

ゆっくりシップ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この短編はTwitterの「好きなものに忠実に書く祭」に参加させて頂いたやつです。

目次

漣「ご主人様、夢って見ますか？」

漣「ご主人様、夢って見ますか？」

ここはある所にある鎮守府。

ホントは少し説明とかしたいけど読者の皆さん、正直導入とか要らないでしょ？んな訳でいきなり本編どぞ。キャラ説明はオマケとしてついてくるので。

「………… そう言えば昨日ぼのたんがですねーって聞いてますかご主人様？」

「………… ムニヤ」

「むっかー！漣が折角今からぼのたんの恥ずかし面白い黒歴史を話してあげようとしたのにご主人様ったらー！これには仏のような優しさを持った漣ですらムカ着火fireですよ!？」

「いや仏は嘘だろ絶対」

「起きてんじゃないですかご主人様のバカ！アホ！ドジマヌケ！お前のかーちゃん美人さん！」

「酷い言い様だしなんで母さんだけ誉めてんの!?!会ったこと無いよねお前!？」

「そう思っていたご主人様の姿はお笑いでしたよ……………」

「なん…………… だと!？」

「前にご主人様が会議で本部に行ってた時にご主人様のお義母様が鎮守府に来たんですよーあれはこの漣の目を持ってしても読めなかつた……………」

「そんな…………… 嘘だと言ってよバーニー！」

「バーニーが例え嘘だと言っても事実は事実、漣が美人でチョーイカす艦娘なのと同じくらい純度100%の事実なのですよー！」

「だからそれは無いって」

「キー！事実でしょ！ねえ執務室の扉の裏でこっそり盗み聞きしてるぼのたん達?？」

!?!ダツダレモイナイワヨ?

「曙の奴嘘下手くそ過ぎだろ……………」

「はあ!?!あんたにだけは言われたく無いんですけどクソ提督！前の作

戦の時だって私のミスなのにあんたが庇ったせいで危うく軍法会議にかけられる所だったのよ!」

「おやおやー?あのあと泣きながら寝てるご主人様の布団に潜り込んで抱きついてた小娘がなに言ってるのかなー?」「なにそれ俺知らないんだけど」

「……漣。ちょっと表出なさいあんたとは1度白黒はつきり決着つけてやるわ!」

「ふっふっふ……これに勝った方が食後のアイスも間宮券もご主人様も総取り……それでいいね?」

「!……いいじゃない、まああたしはクソ提督は全く興味無いけど?勝ったらしようがなく?貰ってあげてもいいと言うか?」

「おうおうツンデレやめーやぼのたん」

「あーもう頭に来た。覚悟しなさい漣!」

「デュエル!!」

サザナミノターン!リンクリボーリンクシヨウカン!

「俺……景品なのか……」

「すいません提督……あたしが曙ちゃんに「漣ちゃんが最近凄く提督と仲がいい」って言っちゃったせいで……」

「別に構わないさ。こんくらい賑やかな方が楽しいし」

「そう……ですか?」

「ああ。それになんか懐かしい気がするんだ……いつもこんな感じなのさ。なんでかな?」

「……あつそう言えば潮ちゃんがさつき提督を探してましたよ」

「?なんだろうな。と言うかどうして探してたのに一緒にここにこなかったんだ?」

「!?そっそれは……」

「ははっ臙でもうっかりミスする時あるんだな」

ホッ「はい……うっかりしました」

「次気を付ければいいさ。んじゃあいつらが決闘してる間に行ってくるかな。執務も終わってるし。臙、留守番頼めるか?」

「了解。それじゃ行ってらっしゃい提督」

「行ってきます、臙。なんか夫婦みたいだなこのやり取り」
「…… そっち行ったよ、潮ちゃん。やっぱ戻りかけてるみたい」

提督移動中……

「私のー全てが海色に消えてもー♪」

「…… 珍しいな。昼間なのに廊下に誰もいないなんて。まあ皆部屋で休んでるんだろ、早く潮の所に行かないと……」

提督更に移動中……

「ここだな。潮ー？入るぞ？」

「！ 提督ですか？どうぞ……」

「で、なんのよ…… う」

バタツ

「…… すいません提督…… はあまだ消えきってなかったよ……」

「…… つ！ご主人様！」

「スラマツパギ!!」 「なんですかその起きかた」 「ああ漣か」

「皆もいますよ。で？2人の美少女がご主人様の寝顔を見てた訳ですが、夢でも見てたんですか？ご主人様、凄い顔してましたよ？」

「うーんなんか夢を見てた気はするんだけどな…… 思い出せないや」

「…… どうせクソ提督が覚えてないくらいなんだからどうでもいい夢なんでしょ」

「そう…… だな。うん、きつとそうだ。そーいや潮と臙は？」

「あの二人ならご主人様が起きる少し前に外に出たんでそろそろ帰ってくるはずですよ」

「ねえクソ提督」

「？」

「あんたはもう何処にも行かないわよね？」

「当たり前だろ？ここで5人だけで過ごす、素敵じゃないか」

「…… そうよね」

「ご主人様もぼのたんも漣の事忘れてません？」

「忘れてないって…… そいやさ、漣」

「どうしました？ご主人様、さてはおトイレですか？」

「違う違う。漣達は夢とか見るのかなって」

「そうですね…… 漣達にとっては、今この瞬間が夢のようですよ。

だってようやくご主人様を独占できるんですもの」